

事業主体者

秋田市artlineプロジェクト実行委員会
(秋田市立千秋美術館、秋田県立美術館指定管理者公益財団法人平野政吉美術財団、仲小路振興会)

住所

事務局：千秋美術館（秋田県秋田市中通2丁目3-8）

電話

018-836-7860

URL

<https://www.city.akita.lg.jp/>

事業概要

秋田市立千秋美術館と秋田県立美術館は徒歩で5分程度の距離にあり、2施設をつなぐ道路に面して、仲小路商店街がある。美術館が近距離で立地していることから、秋田市中心商店街の活性化の一環として地元商店街にも参画してもらい、仲小路エリアの回遊性を高め、商店街のにぎわいを演出することと、美術作品への関心を高めてもらうことを目的として、平成29年度から実施。

AR技術を活用したアプリ「artlineAR」を開発して平成29年度から、アートを楽しみながら街歩きができる仕組みを導入した。平成30年度はこの事業の2年目で、平成30年10月1日から平成31年3月31日まで実施。

平成29年度は伝説の生物「イエティ」と「ナマハゲ」、平成30年度は「秋田犬」をモチーフにしてARアプリを作成した。

仲小路商店街にARマーカーを設置し、アプリ内のARカメラをかざすと秋田犬が出現する仕組み。またARカメラの撮影機能を使って、AR秋田犬と一緒に撮影もできる。

千秋美術館では佐竹曙山と小田野直武の秋田蘭画、秋田県立美術館では藤田嗣治の《秋田の行事》について、特設パネルで紹介。千秋美術館の特設パネルの横に展示されている2作品のレプリカにARカメラをかざすと、文鳥や白兔が絵から飛び出し、かわいらしく動き出す。「動物」を共通のテーマとして、美術館にある名画について理解を深め、ARで新たな作品の魅力を発見できる。さらに「秋田犬」の画像を作成したメディアアーティスト上平晃代さんによるワークショップやAR体験イベントを千秋美術館で実施した。

仲小路商店街で協力店舗を募り、アプリのアイコンまたは2つの美術館の観覧券の半券提示で割引など、店舗ごとに違ったサービスを提供するなど、インセンティブを付加することで、相乗効果を狙った。

美術館内や商店街加盟店でのチラシ配布のほか、定期刊行物「artline」（年3回発行）を制作して事業PRを行っている。

効果や課題

本事業の実施により、商店街の来客者の減少に歯止めがかかってきている。

仲小路振興会は現在45店舗が加盟しているが、意思決定が速い。企画から実施いたるまで円滑に進行することが多く、美術館との共同企画においてもスムーズに決定に至った。

平成30年度は「秋田犬」をはじめ動物をテーマにしたコンテンツ

を作成したので、ピョンチャンオリンピック後に話題になった「秋田犬」の効果により、県外からの観光客もARを体験する姿を目にするようになった。

本事業の周知については、定期刊行物、WEBサイトの活用に加え、SNSの活用も検討しているが、人員の確保が難しい。また事業継続のための予算確保も課題である。

事業費

平成29年度：約600万円、平成30年度：約500万円



商店街に設置されたARマーカーに、専用アプリのARカメラをかざすと秋田犬が出現。

千秋美術館1階に展示中の秋田蘭画のレプリカに専用アプリのARカメラをかざすと絵の中に描かれた動物が動き出す。

